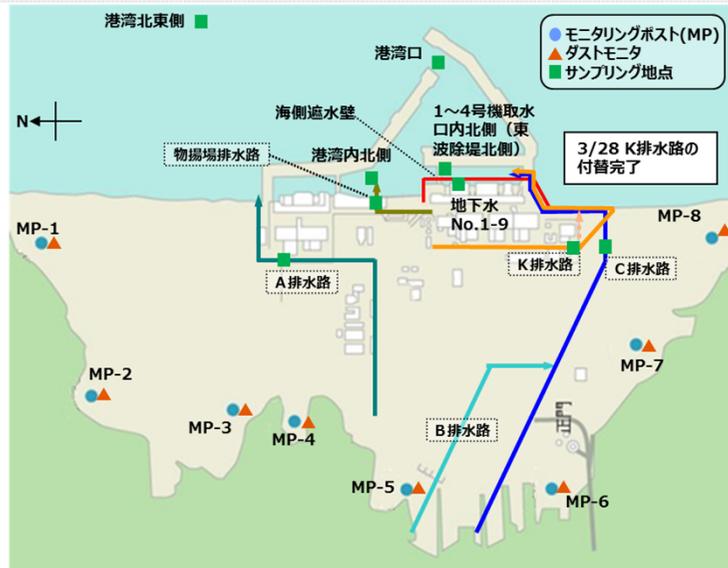
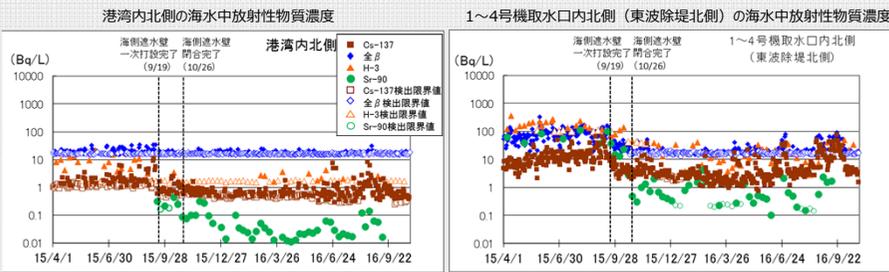


- 前回 (9月29日) 以降のデータ公開数は約9,600件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約9,600件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し作業中、敷地内ダスト (粉じん) 濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し (2015年10月5日) 以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、本年9月13日より壁パネルの取外しを開始し、現在までに13枚の取外しが完了しています。(11月迄に全18枚の取外し予定) また、2号機では原子炉建屋周辺の路盤整備やオペレーティングフロアへのアクセス構台の設置工事、3号機では原子炉建屋オペレーティングフロアへの遮へい体設置工事を実施中です。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト (粉じん) 濃度に有意な変動は確認されておりません。今後、飛散抑制対策の実施とともに、ダスト濃度について、しっかりと監視を継続していきます。

- 港湾内海水の放射性物質濃度の傾向
先月は、8月下旬からの降雨や台風に伴う降雨の影響により1～4号機取水口付近のセシウム137の濃度が上昇がみられましたが、その後、濃度は低下傾向を示し、現在は低い濃度を維持しています。引き続き港湾内の水質を監視していきます。

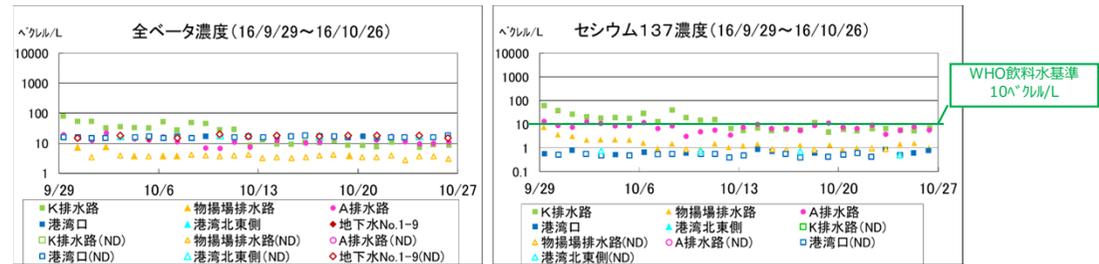


TEPCO データ採取位置図 (右のA、B、C等に対応するポイント)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

- K排水路では、8月下旬以降、台風等に伴う豪雨により、セシウム濃度、全β濃度の一時的な上昇が発生。
- セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO (世界保健機関) 飲料水基準を下回った。

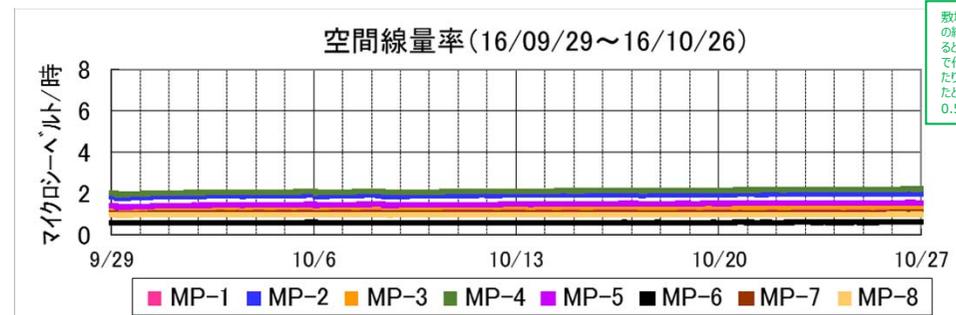
(地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視)



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- (ND)は、不検出の意味で、グラフには検出下限値を記載。

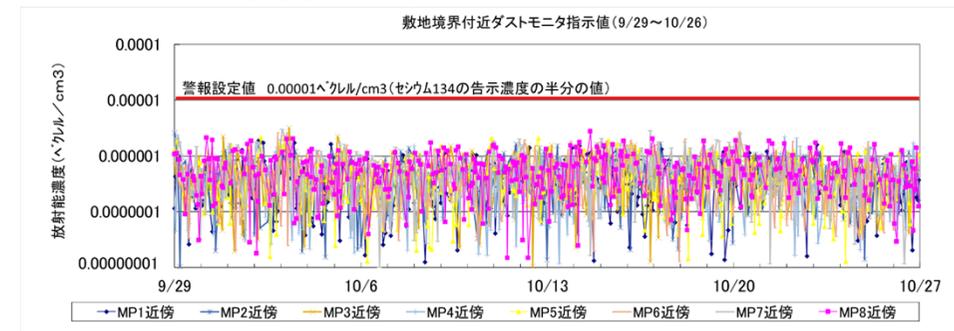
B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

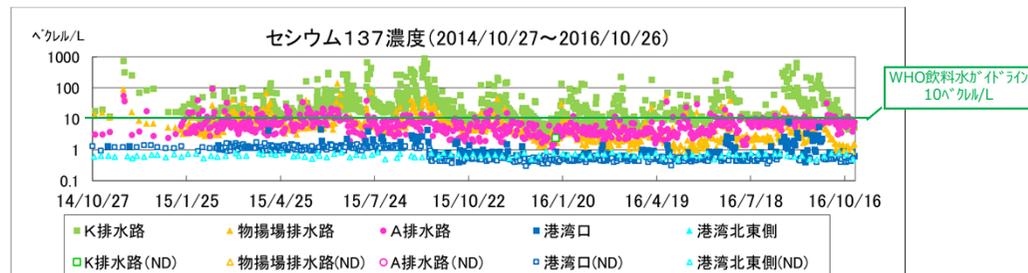
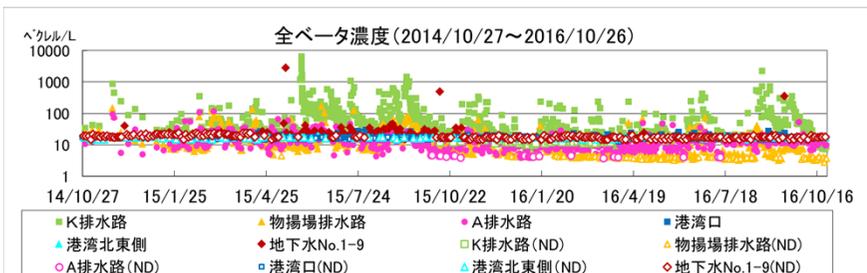


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

A 水（海水、排水路、地下水等）

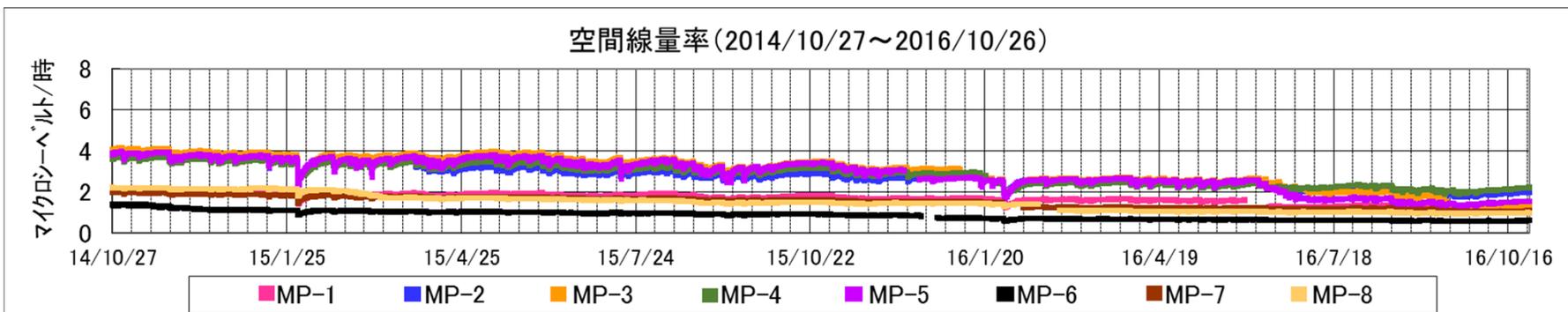
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路は比較的高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。

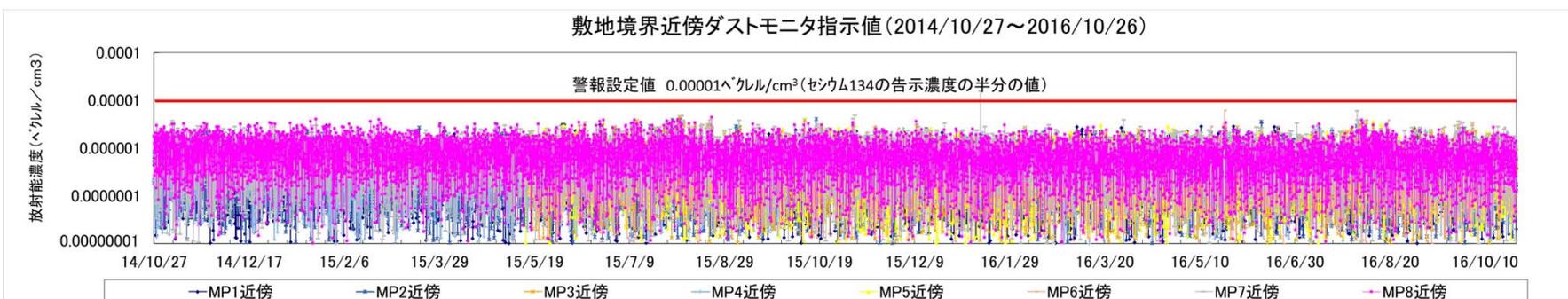
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



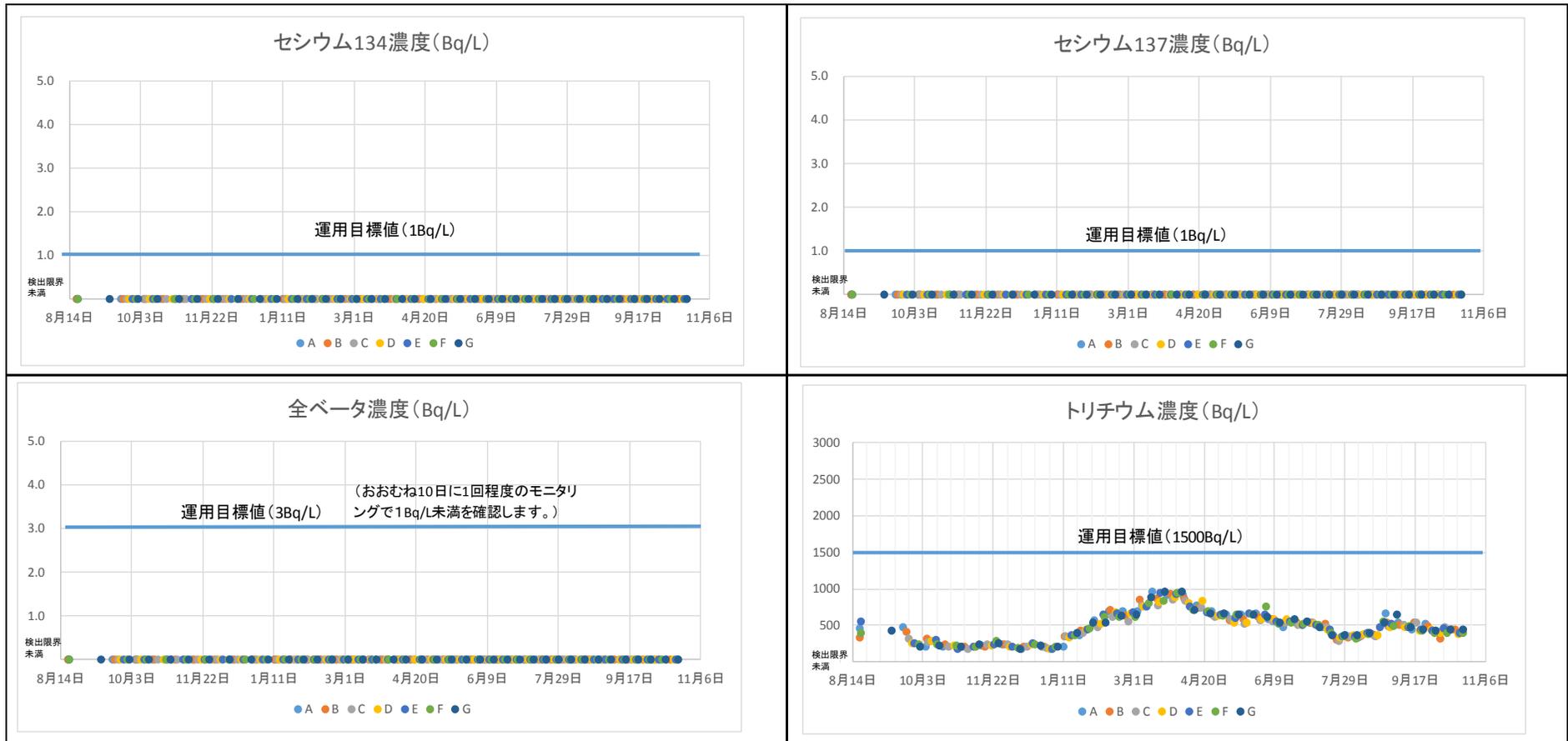
・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2016年10月25日までに合計260回、211,122m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

福島第一港湾内における海底土被覆工事の状況について

福島第一の港湾内では、飛散した放射性物質と堆積する土砂が混ざり合い、港湾内の放射性物質濃度が上昇したことから、2012年から海底に堆積する放射性物質を含む土砂の拡散を防ぐために海底土を被覆する工事を実施しています。現在、海底土の拡散を防ぐ1層目の被覆は完了しており、耐久性を上げるために、さらに2層目の被覆を実施しているところです。

海底土被覆の方法

被覆材は福島第二原子力発電所で製造し、福島第一港湾へ海上運搬しています。被覆材は、打設船を使用し、海底に打設しています。巻き上がりやすい浮泥が存在するエリアは、1層目に軽量の被覆材（ベントナイトと水とセメントの混合）を1~10cm程度被覆し巻き上げを抑え、2層目に耐久性の高い被覆材（山砂と水とセメントの混合）を10cm程度被覆しています。巻き上がりが起こりにくいエリアでは、1層目も2層目も同様に耐久性の高い被覆材を使用しています。

港湾内の放射線データ

港湾内の放射性物質濃度は、低下傾向にあります。今後は、海底土を封じ込めている被覆材が、長期間波の影響を受けることから、耐久性を向上させるため、2層目の被覆を順次実施していきます。

